陸生ホタル研

№147
2025年12月11日
陸生ホタル生態研究会事務局
電話：ＦＡＸ　042-663-5130
Em:rikuseihotaru.07@jasmine.ocn.ne.jp

何が起きているのか
姿を見せない陸生ホタルの幼虫達

塩谷暢生・石垣博史・小俣軍平（文責）

１ はじめに

2019年の台風19号に見舞われた板当沢林道の惨状について、最初のレポートを月報107号に掲載し、またその後の復活状況を131号で報告してから、2年が経過しました。それからも林道の陸生ホタルが気になっていましたので、時々出かけては、それとなく状況の変化を観察はしてきました。上流部を中心とした重機を使った大規模な修復工事が終了した後も、平塚営林署による林道の管理は大変丁寧に行われている様子でした。人の立ち入りが解除された以降も車両の進入は禁止され、草刈りにもエンジンカッターは使われていませんでしたので、林道の中間点までは、昔から林道端を生活の場にしている陸生ホタルの生活は、よく守られてきていました。

北浅川合流点から中間点の900m地点までは、林道と流れの標高差が最大で50mもありましたので、濁流による被害は免れていました。下流部分での、台風通過後の見かけ上の変化としては、大雨による濁流が林道の土砂を一部押し流して、深さ20ｃｍ長さ10m程の溝がところどころにできたことでした。

これならば、陸生ホタルは翌年以降いつも通り羽化するだろうと考えていました。ところがこの予想は見事に外れ、なぜか下流部分でもホタルの姿はまったく見られませんでした。また近年の酷暑も、この27年間経験したことの無いもので、ホタルの生態への影響が気になり続けていました。

今年の夏も酷暑が続き、10月になってようやくの幼虫の調査を行うことができましたので、以下に結果を報告いたします。

２．調査報告

①　調査日　２０２５年１１月　５日

②　気象状況　（午後1時40分、林道の終点で測定）

・天気　晴れ
・気温　10℃
・湿度　63%
・地温　12℃

・水温１３℃

③　調査内容と結果

1：図　北浅川合流点上流側

2：図　同じく下流側

台風被害の復旧工事はすべて終了しており、依然と同じ景色が見られます。

3：図　板当沢橋から見た林道の入口

4：図　100ｍ地点　最初の橋

台風被災前、夏の夜にはいつも、発光しながらこの橋をわたるクロマドボタルの幼虫がみられました。見かけ上の様子も、降り積もる落ち葉の状況も、そのころと全く変わっていません。

5；図　100ｍ地点から見た 200ｍ地点方向の状況。変化はみられず。

6：図　200ｍ地点。支流の分岐点、林道の入口。変化はみられず。

7 ；図　300m 地点山側の法面。昔の姿そのもの。

8：図　400m 地点の山側。落ち葉を掃けば、今にもクロマドボタルの幼虫がころころと数匹出てきそうです。

9：図　500m 地点。かつてオバボタルの大発生がみられた場所です。林野庁の黄色の標識リボンが寂しそうです。

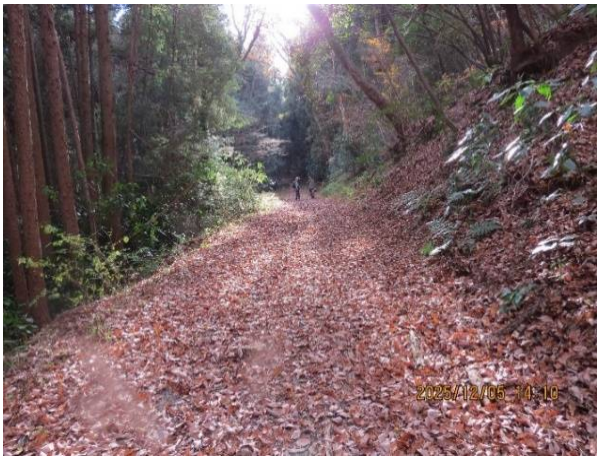
10：図　9：図の法面の拡大図　変化は見られません。

11：図　600m 地点。杉林の成長は見られますが、法面の風景に変化はありません。

12：図　700m 地点。路面に堆積する落ち葉も、法面の様子も変わりありません。

13：図　800m 地点。前方の立木には、以前はよく夜間にクロマドボタルの幼虫が登って発光していましたが、今は見られません。

14：図　900m 地点。かつてオバボタルがよく見られた腐食した杉の切り株には、オオオバボタルの幼虫が生息していました。



15：図　1000m 地点、林道の中間点です。奥にゲートが見えます。

16：図　調査中の塩谷 様

17：図　同じく調査中の石垣 様

④　まとめ

板当沢林道の中間点までは、林道と沢の水面との落差が大きく、台風によって土石流等が発生した形跡は一切ありませんでした。しかし、台風通過後に陸生ホタルの姿が見られなくなったことについては、大被害を被った上流部とまったく同じだったのです。この件について、以前の報告では復旧工事の車両の排気ガスが影響したのではないかと考察しました。

復旧工事が終了し 4 年が経過したので、その影響は解消したのではないかと私は思いました。そこでこの度の調査となったわけですが、以上の報告のとおり、陸生ホタルをはじめ土壌動物は今回もまったく見つかりませんでした。ということは、2020 年以降に板当沢林道から陸生ホタルが姿を消したのは、2019 年の台風 19 号による被災と工事車両の排気ガス以外に、別の要因が有ると考えられます。

会員の皆様方はどのようにお考えでしょうか。ぜひともご意見、ご考察をお寄せいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

番外編　　林道の終点に新たに設営された熊捕獲用容器。異例の事態発生です。

板当沢ホタル調査団が発足した 1998 年以降これまで、板当沢林道に熊が出没したことはありませんでした。このところ人里への熊の出現とそれによる傷害事件が連日報道されていますが、八王子でもその恐れとはびっくりです。高尾山・陣場山山麓には日常的に多くの観光客が訪れます。外国人も含めると年間 300 万人と言われていますので、厳重な警戒が必要ですね。

あとがき

酷暑に見舞われ思うように調査が出来なかった 2025 年も、終わりに近づいています。北海道・東北地方の沿岸部で先日 12 月 8 日に発生した地震は、いまだ収まる気配が見られません。陸生ホタル研の会員の皆様のご無事を心からお祈りします。どうぞお体を大切に頑張ってください。

今年も酷暑によるものと思われるさまざまな被害が報道されてきましたが、ゲンジボタルの羽化については、障害があったという報告はありませんでした。前回 146 号で粕谷和夫様の報告を掲載しましたが、それについて粕谷様から、

「自転車に乗っての調査は排気ガスを出さないようにということではなく、川筋を走るのに好都合なので使っています。」

訂正をお願いしますと連絡いただきました。大変失礼いたしました。お詫びして訂正いたします。

今年もイスラエル・ウクライナをはじめとする争いが収まる気配が見られません。1945 年 8 月 13 日（終戦の 2 日前）に、米軍の艦載機から機銃掃射を受けた経験のある私は、12 月 8 日を迎えるたびに「戦争をやめて話し合いによる解決を・・・・」とお祈りしています。